

令和6年度 事業所における自己評価総括表(ドットジュニアさぎぬま 第1教室(放課後等デイサービス・児童発達支援))

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点(事業所の強み)や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期:R6/11/1~R6/11/18> <職員アンケート調査及び検討時期:R6/11/1~11/30>

強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
チームで支える支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所では、支援開始前に職員同士で打ち合わせを行い、その日の活動や支援の流れ、役割分担を確認しています。 ・支援後には振り返りを行い、日々の支援記録とあわせて次の支援へとつなげています。 ・一連の連携体制が職員間に定着しており、児童一人ひとりへの支援の質を高める基盤となっています。 	<p>今後は、支援前後に行われる職員同士の打ち合わせや振り返りの時間を、単なる業務連絡の場にとどめず、児童一人ひとりの支援の質を高めていくための「学びと対話の場」としてさらに機能させていくことを目指していきます。</p> <p>その取り組みの一環として、月1回以上、職員の資質向上を目的とした研修の実施を予定しています。</p> <p>研修内容は、制度理解といった座学にとどまらず、日々の支援実践に直結するテーマに焦点を当てていく予定です。</p>
柔軟な支援プログラム運営	<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムについては、固定化を避ける工夫をしています。 ・児童からの人気が高い活動を繰り返し取り入れるなど、柔軟な運営を行っています。 ・児童にとって「できた!」という成功体験が積める工夫がされており、主体的に参加しやすい環境が整えられています。 	<p>今後はこうした取り組みをさらに充実させ、一人ひとりの「学び方」や「感じ方」の違いに応じたプログラム設計へと発展させていきます。</p> <p>その取り組みとして、職員間でのプログラム検討の場を設定することや、支援前の声かけの中で、活動の目的や「どんなことに挑戦してみるか」児童自身にも伝えることを検討しています。</p>
情報発信の体制	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容や行事予定について、定期的な通信の発行や保護者向けアプリ「HUG」などを活用し、円滑な情報発信を行っています。 ・日々の様子をタイムリーにお伝えすることで、ご家庭でもお子さまの成長を実感していただけるよう努めています。 	<p>今後は、こうした情報発信をさらにご家庭にとって「見やすく」「伝わりやすい」ものへと進化させていきます。</p> <p>写真や動画を活用した「視覚的な発信」の強化や保護者からのちょっとした質問や、活動の感想を気軽に伝えられるよう、保護者向けアプリ「HUG」内のコメント機能の活用を進めます。</p>

弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
アセスメントと個別支援計画の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画に関しては作成・更新が行われている一方で、アセスメントの標準化や、支援に関わる職員間での「共通理解」が十分に形成されていない課題が見られました。 ・アセスメントで使用する用語や支援技術に関して職員間で共通認識を図る場が不足していました。 	<p>今後は、アセスメントシートの見直しや、職員同士の話し合いの場を増やすなど、個別支援計画の質を高める取組を行う予定です。</p>
安全管理・非常時対応体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止や災害時対応に関するマニュアルは整備されているものの、職員間で内容の理解や認識にばらつきが見られました。 ・マニュアルが形骸化して、周知が不足していました。 	<p>今後は、安全計画をもとに、月1回程度の頻度で職員向けの研修および訓練を実施する予定です。</p> <p>また、BCP(業務継続計画)の見直しを行うとともに、定期的な避難訓練を実施し、非常時においても迅速かつ的確に対応できる体制づくりを進めていきます。</p>
家族支援の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニングや保護者向けイベント等、家族を対象とした支援はまだ十分とはいえません。 	<p>今後は、子育てに関する悩みに対応するだけでなく、家庭でもできる支援の工夫を伝えたり、他の保護者とながれる場を提供するなどを検討しています。</p>